

令和 8 年度第 1 回 富士地域医療協議会・富士地域医療構想調整会議
委員意見概要

開催日：令和 8 年 6 月 29 日

当日意見

(1) 地域医療協議会

○ 報告事項

- 1 静岡県保健医療計画に記載する医療体制を担う医療機関（薬局）の変更

○ その他

- 1 結核指定医療機関の再開について（富士市立中央病院）
- 2 富士宮市における準無医地区となる見込みの地区に係る報告について
（意見等）
 - ・無歯科医地区の考え方も進めてほしい。

○ 協議事項

- 1 第 9 次静岡県保健医療計画の中間見直しについて
＜資料 3、説明内容のとおり行うということで承認＞
- 2 新たな地域医療構想の策定体制について（地域医療構想調整会議と共通）

(2) 地域医療構想調整会議

○ 協議事項

- 1 新たな地域医療構想の策定体制について（地域医療協議会と共通）
（意見等）
 - ・栄養管理の連携は重要と考えるが、栄養士が委員になることはないのか。→検討する。
 - ・市の委員について実際に実務を行う行政職の職員を入れるべきである。→委員としては市長に参加をお願いするが、随行や同席というような形で、実務担当者の方にも関与していただけるように調整していく。

＜資料 4、説明内容について承認、資料 4－2 で示された案を軸に進めていくことを承認＞

○ 報告事項

- 1 令和 7 年度病床機能報告・地域医療構想（現行）の進捗状況の検証について
（意見等）
 - ・富士圏域は、2040 年にかけて、85 歳以上人口の増加率が県内で一番高い医療圏となる。
高齢者救急をはじめとして回復期、リハビリテーションなど、新しい地域医療構想の包括期機能をしっかり考えていかなければならない。
 - ・病床が多い地域は医師数が多いというのが全国的な傾向になるが、静岡県、特に富士医療圏については、人口に対してベッド数が少ないことが医師数の少ない要因にもつながっている。看護師も同じような傾向にある。病院の医療機能を、人口構造や疾病構造に合わせていくこと重要なポイントになる。
 - ・富士地域では、2025 年度の必要病床数に対する現状の病床が不足している。患者は静岡市や沼津市、駿東田方地域に流れており、病棟の稼働率が上がらず、新たに病棟を開設できない。医療従来急性期病院からの病床機能分化だけでなく、2040 年に向けては介護施設（老健や介護病院など）に常駐医師がいて病院を支える役割も重視され

る。患者の受け皿として在宅や介護施設のベッド活用が不可欠。

- ・ 現在、介護系施設の機能や医療体制の「見える化」や情報共有が不足しており、地域全体での連携強化が求められている。理想は、患者の地域外流出を減らし、高齢者の救急・慢性期医療・看取りまで包括的に対応できる、病院と介護施設が連携する富士地域の地域包括ケア体制を作ること。今後は、関係者が情報共有や意見交換を重ね、新たな地域医療構想を具体化していくことが重要。
- ・ 介護系のサービスの強化が必要

2 令和7年度かかりつけ機能報告制度の集計結果

3 地域医療介護総合確保基金

○ その他

1 病床数適正化緊急支援事業について

- ・ 富士圏域は、改めて後日書面協議での対応をお願いする。

(意見等)

- ・ 富士圏域の病床の必要量が2,610床で、実際の数値が2,371床、実際には先ほどの病床が足りてないが、それに巨額のお金を出してまた病床削減するということが理解できない。どういう意味合いがあるのか。
- ・ 必要病床数という考え方がある一方で、第9次保健医療計画の中で基準病床数という病床の適正配置と適切な入院医療を確保を目的とした数値があるが、富士圏域の基準病床数は2,365床に対し、令和8年の4月現在の既存病床数が2,514床で149床オーバーベッドとなっている実態となっている。
- ・ 富士医療圏に関しては、もっと医療の供給体制を高めてほしいと。結果的にベッドをもっと増やすという基準病床に対して増やすというような提案、根拠を示して提案するというような形で動いていただいた方がいい医療圏だと思う。
- ・ 感染症の爆発により医療体制が崩れた時に、医療を受けられない方が出ないように、昨年から年末年始に発熱センターを開設している。有事の際に、病床をどんどん削減した結果、医療を受けられないという方が出ないように、進めていただきたい。